

大学生が山武市の未来を創る

山武まちづくり提案2011

千葉大学都市環境システム学科の学生が、7月30日にさんぶの森交流センターあらざ館で、『まちの未来を創る～山武まちづくり提案2011～』の発表を行いました。

これは、環境システム学科3年生の都市空間工学演習で、都市の現状や抱えている課題を検証し、まちづくりの提案を行うものです。

平成20年から山武市のまちづくりの提案を行っており、最初に成東地区、松尾、蓮沼地区と実施。今年で最後となる、山武地区の提案発表がありました。

学生らは3つのグループに分かれ『山武をおいしく、楽しくーbio-villageー』『サンパチェンスー山武のところが育つ庭ー』『山武流』のメインテーマで取り組みを話し、有機農業を中心とした町づくりや、宿泊施設付きの市民農園やウォーキングイベントの開催、作田川と人とが触れ合える場所などを提案しました。



▲真剣に提案発表する千葉大生

蓮沼の地を照らす花

山武市サマーカーニバル



蓮沼海浜公園展望塔と打ち上げ花火

7月30日、「津波で被害のあった山武市で行うことに意義がある」との高らかな開会宣言のもと、蓮沼海浜公園で山武市サマーカーニバルが行われました。今年は、1時間ごとに雪を降らせたり、米粉麺の特設ブースが設置され、工夫を凝らした様々な味の食べ比べが楽しめました。締めの花火は去年より多い約1,200発が打ち上がり、夜空を美しく彩っていました。

綺麗な花が咲きました

サンパチェンスを寄贈

昨年、市内の各小学校へサンパチェンスを寄贈していただいた株式会社ナミカワ不動産から、今年も4月下旬に計1,090株のサンパチェンスを寄贈していただきました。

この花は、二酸化炭素(CO₂)削減に大きな効果を持つ花だといわれています。4月には小さかった株もこんなに大きく育ち、綺麗な花が咲きました。



▲大きく育ったサンパチェンス

100年に一度咲く花 竜舌蘭 (りゅうぜつらん)



松尾町折戸の浅野さん宅の、100年に一度咲く花が咲きそうだと情報提供がありました。

竜舌蘭という花で、浅野さんのお父さんが40年くらい前にいただいたもので、ここ2ヶ月で急に茎が伸び始め、高さは、約8mほどにもなっていました。

この花は、気候や土壌にもよるが一般に成長が遅く、花を咲かせるまでに数十年を要するものも多く、あまりの成長の遅さに、100年(1世紀)に一度開花するという誤った認識から『センチュリープラント』という英語別名がつけられています。



▲大きくなり花の様子がわかりません